

【現場写真 NO.1】

H25.3.1



ア) メタンガス濃度上昇箇所(試験坑道 1)
調査用ボーリングを行ったところ、メタンガス濃度が上昇したため、作業員退避させた。換気後、安全を確認したのちボーリング孔の閉口作業行う。
現在、メタン濃度は検知されていない。



イ) 湧水発生箇所(周回坑道(東))
手前のボーリング機2機にてグラウト注入を行っている。
注入後は、湧水量が減少。
現在の排水量は約19m³/時で推移。



ウ) 周回坑道(西)
掘削覆工工事
試掘ボーリング(土質状況確認)を行いながら作業を進めている。



エ) メタンガス検知器(固定)
作業現場に設置

【現場写真 NO.2】



オ) メタンガス検知器（携帯用）
固定の検知器以外に、作業員に常備させている。



カ) 中央管理室
坑道内すべての個所のガス及び酸素濃度をリアルタイムで表示。
24時間監視員が常駐しており、異常時には警報ランプ等が作動。



キ) 排水処理施設
坑内の湧水は薬剤・砂ろ過等の数回の処理工程を行ったあと、水質基準に満たした状態で河川に放流。（400m³/時×2基の処理能力）
各工程、河川放流箇所での水質管理を行い、HPで公開。



ク) 調整池
排水処理能力以上の湧水が出た場合、一時貯水を行う。
調整池は漏水防止のため二重の遮水シートを施している。